

支援会議を活性化させる「ファシリテーション」（5）

“オンライン”での支援の可能性を模索する

企画者	三田地 真実（星槎大学大学院教育学研究科）
司会者	三田地 真実（星槎大学大学院教育学研究科）
話題提供者	田熊 立（千葉県発達障害者支援センター） 園部 直人（山形県立鶴岡高等養護学校） 吉田 五月（千葉県発達障害者支援センター） 臼井 潤記（千葉県発達障害者支援センター） 三田地 真実（星槎大学大学院教育学研究科）
指定討論者	岡村 章司（兵庫教育大学大学院） 枝廣 和憲（福山人間文化学部）

KEY WORDS: オンライン 支援会議 ファシリテーション 支援 研修

【企画趣旨】（三田地）

2020 年春以降 1 年以上に亘って、全世界が新型コロナ感染症の影響を受け続けている。このため、オンラインを用いた様々なコミュニケーション方法が支援の現場でも取り入れられてきている。今年度は、支援会議のみならず、広く支援そのものに範囲を広げてオンラインの可能性について討議する。オンラインを使う際には会議であれ、支援であれ、ファシリテーター養成の際にもファシリテーション力は必須であり（三田地, 2007; 2013, 三田地; Thorpe, 2007）、今回は広く「支援」を支えるオンラインに焦点を当てる。

【話題提供者の趣旨】

1. オンライン・ファシリテーションの整理（三田地）

三田地（2007）では、支援会議を円滑に進めるためにインターネットの活用についてメールや掲示板などの利点・欠点を整理している。ただし、ここには「オンライン会議システム」は含まれていなかった。一方、Thorpe（2007）はウェブを使ったカンファレンスについても「オンライン・ファシリテーション」に含め、その利点・欠点を他の対面スタイルなどとも比較して整理している。いずれのスタイルにおいてもファシリテーターは必要なツールを選び、参加者がプロセスに参加できるように促進する重要性があるとしている。なお、オンライン会議システムの解説動画は次の通り：<http://www.seisa.ac.jp/about/online.html>

2. ファシリテーションを取り入れたオンライン会議（園部）

県立こころの医療センターに入院する県内や隣県の小中学生の多くが当分教室に転籍する。そして、入院中の生活や分教室での適応状況が良好になると、病院スタッフ、保護者、地元校教員、分教室教員等が参加する「合同カンファレンス」を実施し、「トライアル登校」（地元校に慣れる登校）の支援計画を協議する。令和 2 年度のカンファレンスは新型コロナ感染症予防のため、全てのカンファレンスをオンラインで実施することとなった。本事例では、カンファレンスの目的を達成できるよう、様々な場所から出席する人々のコミュニケーションを促進し、合意形成をはかるために、病院と分教室の連携によるファシリテーションを取り入れたオンラインカンファレンスの実践を報告する。

3. オンライン研修の実践（吉田・臼井）

千葉県発達障害者支援センターでは、県内の福祉施設職員を対象に強度行動障害のある方の支援に関する人材養成研修を通年で実施している。研修プログラムの一環として、受講生の所属施設における支援会議や運営会議など、「身近な話し合の場」や「支援者同士のコミュニケーション」を見直すことを目的に、ファシリテーションに関する研修を

対面で実施してきた。昨年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、オンライン研修に切り替えて実施した。

そこで、オンライン会議システム Zoom を用いて実施したファシリテーション研修を受講し、所属施設の支援会議においてファシリテーションの実践をした受講生を取り上げ、オンラインによる研修効果について報告をする。

4. 地域の課題解決を目指したオンライン研修（田熊・吉田）

平成 30 年度に「発達障害児者及び家族体制整備事業」が創設され、市町村においてペアレント・プログラムが実施できるようになった。千葉県においても、行政説明で導入を呼びかけてきたが、希望する自治体は増えなかった。導入への課題について調査したところ、内容は知っているが、実施・運営や支援者育成の課題が自治体の規模等によって大きく異なり、内容の情報提供だけでは、課題の解決に至らないことがわかった。そこで、事業を導入したいと考えている担当者が、主体的に問題を解決するための研修会を行った。具体的には、事前に内容・運営・人材育成の詳細をオンデマンドで配信し、事後に各々が課題を整理して研修会に参加し、自分の課題に対してひとつでも行動計画を立てて終わることを目的とした。オンラインを用いた研修会を、問題解決の場として機能させるためにファシリテーションが重要であるということを話題提供したい。

【指定討論者の趣旨】（岡村）ファシリテーションの肝は「場づくり」にある。オンラインでの支援会議や研修および臨床において、参加者及び子どもの適切な行動を引き出す環境整備はどうあるべきか、議論を通して考えていきたい。

【指定討論者の趣旨】（枝廣）オンライン支援会議において、難しいのは、養育者（家庭）の参加であろう。学校や福祉機関等ではある程度、技術や設備等もある。しかし、一歩家庭に入ると様々である。養育者（家庭）を巻き込んだオンライン支援会議のファシリテーションについて議論を深めたい。本研究は JSPS 科研費 JP21K13653 の助成を受けた。

※今回の発表に関しては、参加者・所属機関などの許可を得て掲載している。

【文献】三田地真実(2007)特別支援教育 連携づくりファシリテーション（堀公俊監修）（金子書房）

・三田地真実（2013）ファシリテーター行動指南書一意味ある場づくりのために（中野民夫監修）（ナカニシヤ出版）

・Thorpe, S. (2007). Facilitation online. D. Hunter, The art of facilitation, 175-182.

（MITACHI Mami, TAKUMA Ritsu, SONOBE Naoto, YOSHIDA Satsuki, USUI Junki, OKAMURA Shoji, EDAHIRO Kazunori）※連絡先: m_mitachi@seisa.ac.jp